Log Partition Monitoring

この章は、次の項で構成されています。

- Log Partition Monitoring の概要（P.8-1）
- 参考情報（P.8-2）

Log Partition Monitoring の概要

Log Partition Monitoring は、Cisco Unified CallManager とともに自動的にインストールされ、設定可能なしきい値を使用して、ある 1 つのサーバ（またはクラスタ内のすべてのサーバ）のログ パーティションのディスク使用状況をモニタします。Log Partition Monitoring は、RTMT の Alert Central で設定します。

（注） Log Partition Monitoring は、Cisco Log Partition Monitoring Tool サービスに依存します。このサービスは、[Control Center —Network Services] ウィンドウで開始および停止できるネットワーク サービスです。このサービスは、Cisco Unified CallManager のインストール時に自動的に開始します。サービスを停止すると、機能が失われます。

RTMT の Alert Central では、次のパラメータを設定できます。

- LogPartitionLowWaterMarkExceeded：Log Partition Monitoring がログ ファイルの削除を停止するディスク容量の使用レベル。レベルの範囲は、10 ～ 90 % で、デフォルトは 80 % です。最高水準点より低く設定する必要があります。
- LogPartitionHighWaterMarkExceeded：Log Partition Monitoring がログ ファイルの削除を開始するディスク容量の使用レベル。レベルの範囲は、15 ～ 95 % で、デフォルトは 90 % です。

システムの起動時に Log Partition Monitoring が開始されると、現在のディスク容量使用状況がチェックされます。ディスクの使用率が最低水準点より高いが、最高水準点を下回る場合、システムは syslog にアラーム メッセージを送信し、対応するアラートを RTMT の Alert Central で生成します。

ログ ファイルをオフロードし、サーバ上のディスク容量を元の状態に戻すには、Real-Time Monitoring Tool を使用して、保存するトレースを収集する必要があります。

ディスクの使用率が設定した最高水準点より高い場合、システムは syslog にアラーム メッセージを送信し、対応するアラートを RTMT の Alert Central で生成し、値が最低水準点に達するまでログ ファイルを自動的に削除します。

（注）Log Partition Monitoring は、アクティブなパーティションを自動的に認識します。非アクティブなパーティションのログ パーティション ディレクトリにログ ファイルが存在する場合、それらのファイルがまずシステムによって削除されます。必要に応じて、システムはアクティブ パーティションのログ パーティション ディレクトリのログ ファイルを削除します。この場合はまず、すべてのアプリケーションにおいて最も古いログ ファイルが、ディスク容量率が設定した最低水準点を下回るまで削除されます。Log Partition Monitoring によってログ ファイルが削除されても、システムは電子メールを送信しません。

システムがディスクの利用状況を判断し、必要なタスク（アラームの送信、アラートの生成、ログの削除）を実行した後は、ログ パーティション モニタリングが通常の 5 分間隔で行われます。

参考情報

関連項目

- 『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』の「Log Partition Monitoring の設定」
- 『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』の「RTMT のトレース収集とログ集中管理」